

## ＜文学部仏教学科のカリキュラムポリシー＞

仏教学科では、建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、浄土真宗・仏教の思想・歴史・文化を学び、それらを活用して現代社会に貢献可能な人間の養成を目的とするカリキュラムを編成しています。

1. 大学における専門的課題に取り組む力を身につけるため、まずは「基礎演習」や「教養共通科目」などの履修を通して、基礎力・教養力を養います。また、浄土真宗・仏教の精神を学修するため、「宗教と人間（親鸞と現代）」「宗教と人間（釈尊と現代）」を必修科目としています。
2. 「基礎演習」や「教養科目」を学修基盤として、真宗学・仏教学に関する概論・専門科目を学び、特に講義を通して専門的な知識を身につけます。学びの道筋として真宗学分野・仏教史学分野を置き、自身の問題関心を明確にしていくための指導を行います。
3. 3年次・4年次には真宗学・仏教史学のゼミを開き、また専門的な文献をテーマとする「講読演習」、僧侶としての実践性を磨く「教化学実習」を開講し、さらに史跡踏査、各種の現場におけるアクティブ・ラーニングを通して、仏教に関するさまざまな実践的能力を身につけます。
4. 浄土真宗・仏教に関する体系的な学修を経て、最後には各自でテーマを設定して卒業論文に取り組み、オリジナリティーを持った課題を提示し、その論理的展開を明らかにします。